



導入事例 – PC教室でのCynapコラボレーションシステムの運用

PC端末へのダイレクトな画像配信により中間モニタの削減を実現

国立大学法人 岡山大学 様



中間モニタによる運用



Cynapによる運用

岡山藩医学館を起源とし、140年以上の歴史のある岡山大学。

現在では12学部7学科を擁し、学部生10,000名および大学院生3,000名が在籍する総合大学である。文部科学省が全国の大学・研究機関から選定した「研究大学強化促進事業選定機関」であり、かつ「スーパーグローバル大学事業」の実施校で、先進的な取り組みをすることでも知られている。

導入の背景

岡山大学では、「教育・研究支援情報システム」の整備のために情報実習室(PC教室)の高度化が計画された。整備の最大のコンセプトは、数年先を見据えたBYOD環境を構築することであった。あわせて、快適なPC教室環境の構築を目指し、懸案であったPCモニタの大型化と中間モニタ機能のソフトウェア制御による提供を実現するための仕様の検討が実施された。

導入のポイント

PC教室に設置された最大100台を超えるPCへダイレクトでスムーズな動画のストリーミング配信が可能であること、かつ、どのPCおよびBYODからでもミラーリング転送により大型スクリーン、個別PCへ画面転送が可能であることより、教員、学生が相互に知識共有し、学習効果を最大化できる情報共有システムの構築を実現できることを導入のポイントとした。

「物理的な中間モニタを廃止し、教員の画像を直接すべてのPCにダイレクトに配信するには、高速なストリーミング配信機能が必要になります。この点から、4K動画を含む画像をPC台数に制限なく配信できるCynapは魅力的です。

また、Cynapはこれから必要になる動画を含む学生の成果提示、発表も簡単なミラーリング転送操作により実現でき、双方向の授業の実現基盤としての



Cynapセットアップ例

活用が期待できます。

すでにBYODの多様な接続プロトコルに対応しているCynapのポテンシャルの高さは、多様なBYOD出現に対しても安心したサポートが期待できると判断しました。

限られた予算の中で学生サービスの質の向上を図ることのできる環境を構築できることは、大変重要であり、最終的にCynapをアクティブラーニング基盤として選定しました。」

と語るのは、情報統括センター副センター長でもある稗田 隆教授である。

導入後の状況

上記BYODへのストリーミング配信機能に加え、現在、Cynapの講義収録機能に関して、その有用性に注目されている。

同じく、稗田教授は、Cynapの講義収録機能に関して以下のように語っている。

「講義収録に関しては、通常1コマすべてを連続して収録する必要性は少ないと考えています。

Cynapの録画機能を用いれば、学生は重要と思う授業箇所を独自の判断で収録可能です。重要な部分のみが収録されているため、学生は非常に効率的に反復復習を行うことができます。

この録画を活用した学習形態は『学習の質の向上』に大きく貢献できると考えています。

また、Cynapのシンプルな操作機能は、IT管理者の助けを必要とせず講義中に教員が独自に重要な部分のみ簡単な操作で録画できます。録画された動画は特別な後編集が不要であり、講義収録後直ちに復習教材として公開することが可能になります。この効率的な運用は教員にとって大きなメリットになります。」

今後の展望

現在、すべてのPC教室をあわせると1,300台のPCを運用している。

中間モニタの削減のみならず、将来的にはそのPC台数自体も300台程度に削減し、差し引き1,000台を学生が持ち込むBYOD環境を構築することを目標において継続的な活動を予定されている。

この実現基盤として、Cynapにかかる期待は、今後ますます大きなものになっている。



稗田 隆 教授
(情報統括センター)



情報実習室

Cynapコラボレーションシステム

CynapはBYOD、ミラーリング転送、ストリーミング配信、講義収録、ホワイトボード・アノテーション機能を主な機能とするアクティブラーニングやペーパーレス会議に適したシステムである。

